

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	●プロジェクト目標に対する達成度 プロジェクト目標である「4年制体育科コースの試行的開講に最低限必要なシステムが構築され、教員/スタッフが育成され、プール、ジムが整備されることによって、NIPESの学生が現行の学習指導要領に沿った中・高等学校体育科を教えるために必要な領域・種目を履修することができるようになる。」に対して、 (ア) 本年度はNIPESが4年制大学に移行するための運営システムが更に定着した。また1月の評価会議でカンボジア教育省の高等教育認定機関 ACC(Accreditation Committee of Cambodia)が定めた認定基準9分野73指標243項目に従ってNIPESの運営状況を評価した結果、243項目中119項目、49%は実施できていることが分かっただけでなく、今後何を整備すべきかをNIPES教職員が明確に理解した。【ほぼ目標を達成】 (イ) 計画通り2回の日本研修を実施した。1回目の研修に参加した4名が中心となって授業の質の向上のための研修会を実施し、2回目の研修に参加した4名が中心となってマネジメント能力向上のための研修会を実施し、人材育成を図った。さらにインドネシアとタイの大学との相互協力の覚書を締結し、今後の人材育成への道が開かれた。また、NIPESで初めてとなる英語専門図書を翻訳し、教科書を編集出版し、教員の能力が向上した。しかしながら、教員/スタッフの理解度は目標では80%であったが、アセスメントシートの結果は教員47.64%、スタッフ50.26%であった。達成率はそれぞれ59.55%、62.825%であったことから、5月以降引き続きワークショップ等で知識の向上を図り、再度アセスメントシートを実施し、目標値の達成を目指すようフォローアップをしていく。【人材育成全体で見れば計画の70%達成】 (ウ) 9月に学生寮の改修工事が完了し、第1年次事業で完成したプール、第2年次で完成したジム・ルームとジム機材の整備を合わせNIPES全体の教育環境が整備された。新型コロナの収束に従いプールは水泳の授業に利用され、学生寮も内部規則に従って学生が利用している。また、経費も含めて自主的に維持管理がされている。運営管理に関するスタッフの理解度もアセスメントシートの結果、目標の80%にほぼ近い75.65%であった。【ほぼ目標を達成】 ●上位目標に対する貢献 おおむねプロジェクト目標が計画達成されたことにより、上位目標である、「学習指導要領に沿った体育科教育が中・高等学校教育の現場で実施されている。」に対して貢献できたと考える。 第3年次はマネジメント業務と授業の質の向上図られ、カリキュラム・フレームワークに従って単位を取得した初めての4年制の学生が卒業した。しかしながら、運営ハンドブックやカリキュラム・フレームワークの理解度が目標の80%を達成する事ができていないので、引き続き理解を深めてゆく必要がある。 ●今期事業達成目標 今期事業達成目標である「4年制の中・高等学校体育科教員養成課程がカリキュラム・フレームワーク、アドミニストレーション・ハンドブックに従って運営される。」については、NIPESの運営全体についてみれば整備され、定着が進んでいる。 しかしながらカリキュラム・フレームワーク、アドミニストレーション・ハンドブックの理解度についてはまだ約50%程度である。高等教育認定機関ACCが定めた認定基準に従ってNIPESの運営状況を評価した結果も49%であった。認定基準に従い何を整備すべきかをNIPES教職員が明

	確に理解できたので、今後は認定に向けて NIPES 全体で取り組み、評価を実施して行く。
(2) 活動内容	第3年次の活動の実施状況全体について カンボジアは2021年12月に新型コロナの市中感染の収束が宣言され、国内の感染防止対策が緩和された。また日本、アセアン諸国の感染防止対策も随時緩和され、海外渡航も可能となったので、第3年次は計画していたほぼすべての活動を実施する事ができた。 1. NIPES の体育科コースが4年制大学に移行するための制度が整えられる。 1-17. 体育科コースの運営をモニタリングする。 全6回中、年度後半に2回実施した。 2. NIPES において、質の高い体育を教えられる人材が育成される。 2-3. 4年制大学体育科コースで教えていくための能力を向上するための体育教員育成研修を日本とカンボジアにて実施する。 (本邦研修2回) 第1回目は7月に実施し、NIPES 教員4名の研修を行った。 第2回目は10月末から11月上旬に実施し、NIPES マネジメント・スタッフ4名の研修を行った。 (カンボジア研修2回) 第1回目は8月に日本の専門家を招へいせず実施し、第2回目は2023年2月に日本の専門家を招へいして実施した。 なお、第2回目に参加予定であった本部事業統括スタッフは予定を変更し、12月上旬にカンボジアを訪問し、活動の確認等を行った。 2-4. NIPES の体育教員の授業実施状況をモニタリングする。 NIPES の授業のモニタリングを4回、市内の中高校で体育の教育実習のモニタリングを3回実施した。 2-5. 大学マネジメント能力向上のための研修を実施する。 12月に日本の専門家がオンラインで参加して実施した。 2-6. 教える人材、運営するための人材が育成されたかを確認するための評価会議を開催する。 2023年1月に日本の専門家を招へいして実施した。 2-7. 教育省として、体育関連の修士課程を修学できる NIPES スタッフを派遣するため、タイ、インドネシアの大学との協議を行う。(2回) 第1回目は11月にインドネシアの大学、第2回目は12月にタイの大学で実施し、相互協力の覚書を締結した。 2-8. テキストを作成する。(計画7回)

	研修会を 7 回実施し、教育省の認可を得て、教科書 500 冊を出版した。 3. NIPES において、質の高い体育を教えられる施設状況が整う。 3-6. 学生寮を改修する。 9 月 15 日に改修工事が完了した。 3-7. 体育関連図書を翻訳し、関連書を揃える。 計画通り英語の体育専門図書 28 タイトルを購入した。この内、教科書となる 1 冊を選びクメール語に翻訳した。 3-8. 施設建設状況を確認する。 契約したエンジニアが建設工事の状況を随時確認し、報告書を作成した。 3-9. 施設管理のためのワークショップを開催する。 プール・ジムの管理については NIPES の維持管理グループがすでに実施している。学生寮の利用規則は NIPES が作成したものを担当者が学生に説明したので、ワークショップは実施しなかった。 3-10. 施設移譲のための覚書を交わし、譲渡式は自己資金で実施する。 譲渡式ではなく、寮改修工事完了式を実施した。譲渡契約書は作成しなかった。 3-11. 施設運営マニュアルを作成する。 学生寮の利用規則を NIPES が作成した。 3-12. 施設運営・利用状況のモニタリングを行う。 学生寮の改修工事が完了してから、3 回実施した。						
(3) 達成された成果	第 3 年次の成果・指標・達成状況は以下のとおりである。 <table><tr><th>成果</th><th>指標</th><th>達成状況</th></tr><tr><td>【成果 1】 NIPES の体育科コースが大学運営基準に従って運営するための制度が整えられる。</td><td>【指標 2】 体育科コースのカリキュラム・フレームワーク、シラバス、アドミッション・ポリシー、キャリアプラン、評価ポリシー、体育科コース運営ガイドブックに沿った 4 年制大学の運営が実施され、課題・教訓が抽出され、翌年度の改善策が提出されている。 なお、年ごとの成果を測る指標の数値であるが、第 1 年次は 50%、第 2 年次は 70%、第 3 年次はア</td><td>【指標 2 の達成度】 第 1 年次で作成した体育科コース運営ハンドブックを 2 年次は実際に運用し、課題・教訓を基にハンドブックの内容を改訂した。 第 3 年次はその運用に加えて、1 月の評価会議でカンボジア教育省の高等教育認定機関 ACC (Accreditation Committee of Cambodia) 担当官を招へいし、ACC が定めた認定基準 9 分野 73 指標 243 項目に従って NIPES の運営状況を評価した。その結果、243 項目中 119 項目、49%は実施できていることが分かった。 よって、達成度は 1 年目の運営ガ</td></tr></table>	成果	指標	達成状況	【成果 1】 NIPES の体育科コースが大学運営基準に従って運営するための制度が整えられる。	【指標 2】 体育科コースのカリキュラム・フレームワーク、シラバス、アドミッション・ポリシー、キャリアプラン、評価ポリシー、体育科コース運営ガイドブックに沿った 4 年制大学の運営が実施され、課題・教訓が抽出され、翌年度の改善策が提出されている。 なお、年ごとの成果を測る指標の数値であるが、第 1 年次は 50%、第 2 年次は 70%、第 3 年次はア	【指標 2 の達成度】 第 1 年次で作成した体育科コース運営ハンドブックを 2 年次は実際に運用し、課題・教訓を基にハンドブックの内容を改訂した。 第 3 年次はその運用に加えて、1 月の評価会議でカンボジア教育省の高等教育認定機関 ACC (Accreditation Committee of Cambodia) 担当官を招へいし、ACC が定めた認定基準 9 分野 73 指標 243 項目に従って NIPES の運営状況を評価した。その結果、243 項目中 119 項目、49%は実施できていることが分かった。 よって、達成度は 1 年目の運営ガ
成果	指標	達成状況					
【成果 1】 NIPES の体育科コースが大学運営基準に従って運営するための制度が整えられる。	【指標 2】 体育科コースのカリキュラム・フレームワーク、シラバス、アドミッション・ポリシー、キャリアプラン、評価ポリシー、体育科コース運営ガイドブックに沿った 4 年制大学の運営が実施され、課題・教訓が抽出され、翌年度の改善策が提出されている。 なお、年ごとの成果を測る指標の数値であるが、第 1 年次は 50%、第 2 年次は 70%、第 3 年次はア	【指標 2 の達成度】 第 1 年次で作成した体育科コース運営ハンドブックを 2 年次は実際に運用し、課題・教訓を基にハンドブックの内容を改訂した。 第 3 年次はその運用に加えて、1 月の評価会議でカンボジア教育省の高等教育認定機関 ACC (Accreditation Committee of Cambodia) 担当官を招へいし、ACC が定めた認定基準 9 分野 73 指標 243 項目に従って NIPES の運営状況を評価した。その結果、243 項目中 119 項目、49%は実施できていることが分かった。 よって、達成度は 1 年目の運営ガ					

		ドミニストレーションとして、運営上必要なものが明確になり、アドミニストレーション・ハンドブックに従って運営されるようになることを目指し、目標を 80%とする	イドブックの作成で 50%、実際の運営度が 50%としているので、3 年次の運営度は 49%であるので、達成度は 74.5%であった。ACC の評価指標に従って、未達成の項目が明確となったので、5 月以降引き続きワークショップ等で知識の向上を図る。
	【成果 2】 NIPES において、新しく認定されたカリキュラム・フレームワークに則って質の高い体育を教えられる人材が育成される。	【指標 1】 4 年制大学体育科コースで教えていく能力を向上させるための体育教員育成研修がカンボジア国内で開催され、参加した NIPES 教員の 80%が 80%の内容を理解している。(授業を教える 36 名のうち、前年度に達成している 70% (人数) に加え、10% (4 名) の能力向上を図る。また、前年度の 70% (25 名) についても知識の定着度を図る。4 名については、本邦研修を実施し、その知識を自分たちで伝えていくことにより、知識を定着させる。理解していない職員に対しては、当会スタッフが補習を行う。	【指標 1 の達成度】 2 月 18 日にアセスメントシートを使ったテストを教員 31 名に対して実施した。 テスト結果は質問項目全 21 問の正解率の平均は 10.00 問、47.62%であった。また、80%以上の正解率の者は 31 名中 1 名、71%~80% は 3 名であった。 よって目標の 80%の教員が 80%の内容を理解しているのを達成することはできなかった。 一方、教員の教育に関する能力については着実に向上している。カリキュラムフレームワークに定められた全ての科目のシラバスを作成し、特に第 3 年次では英語専門図書の翻訳、教科書の作成に取り組み 600 頁を越える教科書を NIPES で初めて完成させ、教育省の認可を取得した。また、卒業論文作成にも初めて取り組み、初めての卒業生全員が提出できたことはその証である。
		【指標 2】 8 名の研修生が受講終了後に NIPES での指導方法についての改善案 (1 回目) 及び評価についての改善案 (2 回目) が提出され、NIPES の 75%の職員が改善案に合意する。	【指標 2 の達成度】 計画通り日本研修を 2 回実施した。1 回目は 7 月に日本体育大学にて実施し、研修に参加した 4 名が中心となって 8 月には教員 30 名を対象として、本邦研修の学びを生かした NIPES の授業の質の向上のための国内研修会を実施した。 2 回目の本邦研修は 10 月に日本体育大学でマネジメント研修を実施し、研修に参加した 4 名が中心となって 11 月には全ての課のマネジメント職員等 36 名を対象として、NIPES のマネジメント能力向上のための国内研修会を実施した。2 つの研修会を合わせてほぼすべての教職員が参加し、改善案が提案され、合意された。

			さらに、インドネシアとタイの研修会を実施し、インドネシア 1 大学、タイ 2 大学と相互協力の覚書を締結した。
		【指標 3】 NIPES の 80%のマネジメント・スタッフがアドミッション・ポリシー、キャリアプラン、評価ポリシーや運営ハンドブックの内容を 80%以上理解している。(マネジメント職員 29 名中、前年度の 70%に加え、10% (3 名) の能力向上及び前年度の 70% (21 名) の知識の定着を図る。理解していない職員は個別にそれぞれの役割を確認した上で、なぜ理解できていないのかを確認し、個別に対応していく。) (各項目を網羅したアセスメントシートを使って理解度を図るテストを行う。前年度は 70%、今年度は 80%の正解率を目指す。)	【指標 3 の達成度】 2 月 18 日にアセスメントシートを使ったテストをマネジメント職員 18 名に対して実施した。テスト結果は質問項目全 21 問の正解率の平均は 10. 56 問、50. 26%であった。また、80%以上の正解率の者は 18 名中 2 名、71%~80%は 1 名であった。 よって目標の 80%のマネジメント職員が 80%の内容を理解しているのを達成することはできなかった。 なお、NIPES 全体の運営についてはほぼ目標の 80%に近い数字を達成しているが、スタッフ一人一人の理解度がまだ不十分である。
	【成果 3】 NIPES において新しく整備された施設が適切に維持管理され、体育の授業に利用されている。	【指標 1】 学生寮の耐久・安全性が向上し、体育関連書籍が教職員・学生に利用されるようになる。	【指標 1 の達成度】 学生寮の改修工事においては随時 NIPES 担当者と小会、エンジニアでチェックし、完了時には NIPES 副所長等数名と共に 2 週間で 3 回の最終確認を実施し、不備な箇所を指摘して、耐久・安全性を確認した。 本事業で購入した英語体育関連書籍については 2 月の第 3 年次最期の研修会において NIPES に寄贈し、図書館に保管したので、本格的な利用は今後に期待される。
		【指標 2】 80%の NIPES 職員が施設運営について 80%理解している。 各項目を網羅したアセスメントシートを使って理解度を図るテストを行う。前年度は 70%、今年度は 80%の正解率を目指す。	【指標 2 の達成度】 プール、建屋、ジム・ルーム及び機材については NIPES 内に設置された管理グループによって適切に維持管理され、telegram を使ってオンラインで毎日報告されている。学生寮については担当者が運営管理し、学生は内部規律に従って利用している。

		指す。	教職員の理解度は 2 月 18 日、NIPES の施設管理方法を確認するためにアセスメントシートを使って、モニタリングを実施した。 50 人がテストを受け、全 40 問の正解率の平均は 30.26 問、75.65%であった。また、70%以上の正解率の者は 49 名中 40 名、81.63%であった。80%以上の正解率のものは 49 名中 25 名、51.02%であった。
上記成果から、成果 1 と成果 3 については目標にほぼ近い数字を達成する事ができた。一方、成果 2 については目標を達成する事ができなかった。 その理由として 2021 年 12 月に新型コロナの感染の終息宣言が出されたが、2 年間に亘り対面授業ができなかった影響は大きく、カリキュラム・フレームワークやシラバスに従った授業やマネジメントが十分にはできなかった。また海外留学から戻った新任教員がこれらを理解していないことも原因である。 よって、教員についてはそれぞれが担当する科目の教授能力や生徒の指導についての能力は向上しているがカリキュラム・フレームワークの制度に関する知識についてはまだ理解が不十分なので、5 月以降引き続きワークショップ等で知識の向上を図り、再度アセスメントシートを実施し、目標値の達成を目指すようフォローアップをしていく。 また、マネジメント・スタッフについても、運営ハンドブックの理解を深めると共に高等教育認定機関 ACC が定めた認定基準 9 分野 73 指標 243 項の達成を目指して、次年度にワークショップを開いて理解の促進を図る。 持続可能な開発目標 (SDGs) に該当する目標における成果としては、目標 4 の「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」、「2030 年までに、すべての子どもが男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする。」、「2030 年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国における教員研修のための国際協力などを通じて、質の高い教員の数を大幅に増加させる。」に対して、質の高い教員を増加させる為に必要な教員養成課程の 4 年制体育科コースのカリキュラム、運営ハンドブック、シラバスに従って実施し、NIPES 全体の運営や授業の質は向上している。 しかしながらまだカリキュラム・フレームワークや運営ハンドブックについて理解が十分でない部分があり、今後も随時ワークショップを実施し、質の高い体育教員を養成し、公立の中学校・高校に送り出していくことで、上記の目標を達成する。			

(4) 持続発展性	NIPES は、教育省内スポーツ総局の中の一つの機関として年間予算が確保されており、事業終了後も継続する機関であるため、持続発展性を確保することができる。 また、「(3) 達成された成果」に記したとおり、第1年次でNIPESの運営の根幹を成すシステムの基礎を整備し、第2年次でカリキュラム、シラバス、運営ハンドブックに従って実際に運営し、課題と改善点を抽出し、シラバス、運営ハンドブックを改訂した。 第3年次ではNIPESの運営システムの定着が進み、主体的に運営していくことができるようになってきており、更に高等教育認定機関ACCが定めた認定基準の達成に向けて前進している。 また、教員及びマネジメント・スタッフに対してカンボジア国内及び日本を含む海外研修を実施し、体育教育及びマネジメントの更なる強化を図り、4年制体育科コースを継続的に運営できるようになってきており、必要な部局の設置、人材育成を図る計画である。 設備機材については、第1年次にプール、第2年次でプール周辺建屋、ジム・ルームの建設、ジム機材を整備し、3年次で体育の授業で使用了。維持管理についてはNIPESの自主管理委員会が担当している。3年次には学生寮の改修を行い、NIPES担当者が施設全体を維持管理し、学生は内部規則に従って利用している。引き続き高等教育認定機関ACCが定めた認定基準を達成するために必要な設備機材を整備して行く。
------------------	---